

アソカ講話075

テーマ「一隅を照らす」

小さな人生論第4巻1章に次の詩が紹介されている。

「一隅を照らすもので 私はありたい
私の受け持つ一隅が どんなにちいさい
みじめな はかないものであっても
わるびれず ひるまず いつもほのかに
照らしていきたい」と。

自らの持ち場を照らすことのできない人に他者を照らすことはできない。自らを修めることのできない人に人を治めることはできない。まず、自らを照らすことから始まり、そして、自らを照らすことで終わる。自らを修める道は、永遠であり、その修める道の中に役割に応じて他者や部署、地域を照らす使命を与えられることがある。もし、その使命が与えられたなら、一隅を照らすようにひたむきにその使命の実現に取り組むだけである。

この詩を読むと、人の生き方の原点をいつも教えられたような感銘を受ける。自らの使命は、自らを修める中に立ち現われる。そして自らを修めながらその使命を果たす。これが生きることの本質ではないか。「私も常に一隅を照らせる人でありたい」そう思う。